

とちぎ夢大地応援団第2回カレッジ活動報告(令和2年10月18日実施)

日光市 土呂部地区 「茅ポッチ制作作業」

日光市土呂部地区で令和2(2020)年度第2回「とちぎ夢大地応援団カレッジ活動」と2020年度第1回「とちぎ夢大地応援団活動」を行いました。今回は、宇都宮クランク高等学院と文星芸術大学の生徒や学生その他、とちぎ夢大地応援団員が参加しました。この日は、「日光茅ポッチの会」が受け入れ組織となり、「茅(かや)ポッチ」作りに取り組みました。

土呂部地区は過疎化、高齢化が進んでいて、屋根の材料や牛馬の飼料になるカヤを採る「茅場」が残る数少ない地域です。同会は「茅ポッチ」作りなどを通して、土呂部の里山風景や草原植物を守る活動を行っています。

参加者は同会の飯村孝文代表から会の活動や「茅ポッチ」作りの意義などを聞いた後に、作り方を教わりました。

刈り取った雑草を束ねて円錐形に立てる作業を午前中かけて行い、およそ150個の茅ポッチを完成させました。

飯村代表は「昔はどこにでもあった茅場がどんどんなくなり、草原の森林化が進んでいる。活動を通して若い世代に里山の環境を守る活動への理解が深まればと思う」と期待を寄せました。



▲秋晴れに恵まれ、さわやかな高原での活動は日常を忘れさせます。



日光茅ボッチの会；代表飯村さんから、この地区の現状と茅ボッチについて、説明がありました。

当日の朝の気温は1℃！はじめ寒かった気候も時間を追うごとに上がりはじめ、作業を行う頃には、汗ばむ場面もありました。



日光茅ボッチの会の方が、茅ボッチの作り方を丁寧に指導くださいました。刈り取った雑草を小さく束ねた後、5つの束を円錐状に集めて結び上げます。完成した茅ボッチは、そのまま天日干しした後、近くの牧場に運ばれて、牛の餌になります。



昼食風景です。

日光茅ボッチの会員の方々より、振る舞われます。地元産のお米を使用したお弁当と昨日とれたナメコの味噌汁をいただきました。草原の風景とおいしいご飯で、食が進みます。お味噌汁をお代わりする人もたくさんいました。



閉会式では、宇都宮クラーク高等学院の生徒さんから、日光茅ボッチへ向けた感謝の言葉と自然環境の保全に携われたことへの充実感を元気いっぱい述べていただきました。今後も茅ボッチの会の活動を見守りたいと言葉を続けました。